

# 北海道師範塾 塾頭通信

## 「教師の道」

第967号 平成27年7月21日

### 「頑張れ」再考

以前この塾頭通信（第931号）において「頑張れ」という言葉について書いていますが、今日はその続編という形で、改めて「頑張れ」について考えてみたいと思います。

「もっと頑張きなさい」等保護者の子どもへの叱咤激励は、「生活力」の向上には必ずしも繋がっておらず、むしろさまざまな体験の積み重ねの方が効果的であるという調査結果を国立青少年教育振興機構が発表しました（5月2日付日本経済新聞他から）。

この調査は、現在の青少年の「生活力」の実態を把握すると共に、「生活力」が体験活動や生活環境、保護者との関係等にどのように関係しているかについて明らかにすると共に、体験活動の在り方を考察するための資料を得る事を目的に行われたものです。

また、調査は、全国の小学校4年生から高校生約1万7千人、及び全国の小学校4年生から6年生の保護者約8千人を対象に、平成24年9月から10月にかけて行われました。

#### 【コミュニケーションスキル】

- ・友達の相談にのったり、悩みを聞いてあげる
- ・自分と違う意見や考えを、受け入れる
- ・初めて会った人に自分から話しかける 等

#### 【礼儀・マナースキル】

- ・「ありがとう」「ごめんなさい」をいう
- ・近所の人に挨拶する
- ・遅刻しないで学校に行く 等

#### 【家事・暮らしマナー】

- ・洗濯物を綺麗にたたむ
- ・ナイフや包丁でリンゴの皮をむく
- ・決めた時間に起こされずに自分で起きる 等

#### 【健康管理スキル】

- ・夜更かししない
- ・毎朝、朝食を食べる 等

#### 【課題解決スキル】

- ・一つの方法が旨く行かなかったら、別の方法でやってみる
- ・トラブルがあった時、原因を探る
- ・目標達成に向けて努力する

さて、国立青少年教育振興機構が把握しようとした子ども達の「生活力」というのは、どのようなものなのでしょうか。同機構では、調査に当たり「生活力」を以下の通り5つのカテゴリーに分けて整理しています。

教育の目標は、子ども達に対して「生きる力」を獲得させる事にありますが、そのためには家庭や地域と連携しながら「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」という3つの力をバランスよく育み育てて行く

事が重要です。

今回の調査テーマである子ども達の「生活力」というのは、そうした「生きる力」を「知・徳・体」とは異なる切り口で見たものといえます。

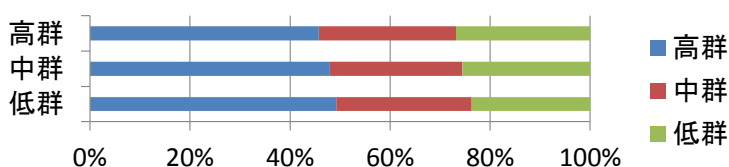
国立青少年教育振興機構では、子ども達の「生活力」について体験活動や保護者の意識等との関係等を調査・分析した結果、

- ・保護者が「勉強以外の様々な事を出来るだけ体験させている」等体験を積極的にさせている「体験支援」的な関わりをしていたり、「学校の無い日にも早寝早起きをさせている」等生活習慣を身に付けさせる事に力を入れている「生活指導」的な関わりをしている程、その子どもの「生活スキル」は高い傾向が見られる
  - ・「よく『もっと頑張りなさい』とっている」等の、保護者の「叱咤激励」的な関わりとの程度とその子どもの「生活スキル」との関連は見られない
- としています。

以前私は、塾頭通信（931号）の中で、「頑張り」という言葉には多様なニュアンスが含まれており、激励のつもりがそうは受け取ってもらえない場合があるので、この言葉は使う場面や相手を考慮する必要があると申し上げたのですが、今回の調査結果からも、以下に見るように、叱咤激励はそのやり方を考えなければ効果がない事が良く分かります。

右のグラフの見方は、保護者の叱咤激励と子どものスキルとの関係をマトリックスで示したもので、表側の高群・中群・低群というのは保護者の叱咤激励の度合いの強さを示し、棒グラフの高群・中群・低群というのは身に付けているスキルの高低を示しています。

保護者の叱咤激励と子どもの課題解決スキルの関係



なお、保護者の「叱咤激励」的な関わりというのは、

- ・よく「もっと頑張りなさい」とっている
- ・よく小言をいっている
- ・しっかり勉強するようにいっている
- ・子どもと意見が違うとき、自分の考えを優先している

というもので、大抵の保護者は、この中の幾つかには当てはまっているのではないのでしょうか。

こうしたグラフを見る限り、子どもが「生活スキル」を身に付ける上で、保護者の叱咤激励は全くの無駄という事ではありませんが、保護者が考えている程には効果がない事が分かります。

その背景は、保護者の叱咤激励に子どもが反発し、その結果として「生活スキル」が低くなっている場合もあるでしょうし、逆に、子ども達の「生活スキル」が低い

ために、保護者の方もついつい叱咤激励に熱を帯びるという事もあるでしょう。

いずれにせよ、折角子どもの事を思っただけの叱咤激励ですから、空回りしないよう、時と場所、そしていい方には工夫と配慮は欠かせません。

(塾頭 吉田洋一)